

検定試験の評価等の在り方に関する調査研究協力者会議（第7回、6月30日）
 主な意見への対応

意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・有識者会議の報告書では、通例、補助資料や調査の出典、ウェブサイトのアドレス等が出ているかと思う。出典の明記の方法について、省全体で統一いただければと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データを引用した部分と中教審の答申名については、脚注で示すという方法に統一する。また、文末に補助資料を添付する。
<p>6頁1行目等「企業・学校・地域等広く社会で活用されることを目指している検定試験～」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「活用され、その結果の影響が大きいと予想される」か。ハイステークスで、人生を左右するような可能性のあるテスト。 ・数字がひとり歩きしていくような活用が想定される試験であり、採点結果や合否の判定結果という形で結果の数字が活用されるといふ表現が入っていれば、ここの色分けというのは鮮明になるかと思う。 ・A0入試、入社試験、昇進試験など、具体的な例示が必要ではないか。 ・社会で活用されることを、結局、検定事業者側が目指しているからということだが、実際には企業や学校、地域の使用者側に対して、説明をしなければならない種の検定といえる。 ・想定する内容を例示して、想定しているような事業者は第三者評価までフルセットで実施することが望ましいという文章構造だと、分かりやすいのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「企業における採用・昇進、学校における入試・単位認定、地域における諸活動など、社会の様々な場面で広く活用されることを目指している検定試験は～」と修正（7頁ほか）。
<ul style="list-style-type: none"> ・別紙4について、第三者評価の各項目の番号順が自己評価と異なり、分かりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙4について、別紙2自己評価シートの大項目Ⅰ、Ⅱ、Ⅳと同様の項目内容に揃える。（25頁）

意見	対応案
<ul style="list-style-type: none"> ・21 頁（5）「属性が多様な人々を講義者として選ぶ～」は分かりにくい。 ・多面的に知識というものは身に付けておかないと、検定事業というのは総合的なものなので、偏りが生じてはならず、講義する人もいろいろな人を多面的なところから選んできてくださいというニュアンスだったかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「研修の講師には、多面的な分野の人々を選ぶ～」と修正。（23 頁）
<ul style="list-style-type: none"> ・22 頁（6）「その実施の有無は、第三者評価機関及び検定事業者の判断によるものとする」について、その実施の有無というのは、まず検定事業者の判断によるのではないか。 ・どのような第三者評価の内容にするかは、第三者評価機関が決めるべきで、それを受けるかどうかは、検定事業者が決めればよいということではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「その実施の有無を検定事業者が判断した上で、実施する場合の評価項目は第三者評価機関が定めることを基本とする」と修正。（24 頁）
<ul style="list-style-type: none"> ・22 頁（7）評価結果の公表について、個人的には「適している」「適していない」のレベルで始めた方がよい気がしており、最初から A、B、C をつけるとそれがひとり歩きするのが非常に怖く、結局それが検定事業の発展を阻害するような可能性もあると感じる。最初は緩やかなところでスタートをして、又数年後に見直すといった形の方がよいと思う。 ・適か不適かとする許認可になってしまうが、もう少し抽象的に書いておいた方がいいかもしれない。 ・受け手からすると、確実にひとり歩きする。より細かい段階にして、全部で 50 項目あるうちの 42 項目適合、更に点数をもっと細かくしてしまって 2,600 点分の 2,423 ポイントというような形の方が、むしろスタートには適しているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「評価結果はフルセット版と簡易版のいずれかによるものを明示した上で、各評価項目ごとに評定（A、B、C、D 等）を付し、全体評価については各項目の評価結果を踏まえた講評により行うこととする」と修正。（24 頁）
<ul style="list-style-type: none"> ・別紙 5 については、妥当性、信頼性、有用性の 3 つの柱にどう合わせていくかという作業が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙 5 は別紙 2 の項目立てに合わせるとともに、妥当性、信頼性、（コンピューターを使って行う試験の場合）有用性は担保されているかを評価することとした。（29 頁）